



● 愛のカンパ ●

国内外において大きな自然災害が起きた際、「連合・愛のカンパ」から被災救援金の拠出も行っています。

愛のカンパ金 募集

「連合・愛のカンパ」は、人道主義の立場から「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向け、社会貢献活動として取り組むものであり、NGO・NPO等の事業・プログラムへの支援を行っています。皆さまのご協力をお願い致します。

● 式典時の会場配列 ●

事務局	ステージ
◇分退連	◇自治労
◇中部地域協議会	◇運輸労連
◇大分建労	◇セラミックス連合
◇連合大分ユニオン	◇サービス連合
◇大分ふれあいユニオン	◇部落解放同盟大分県連合会
◇大分県教育庁職組	◇情報労連
◇メディア労連	◇JR連合
	◇フォード連合
	◇紙八連合
	◇JEC連合
	◇国公総連
	◇全労金
	◇森林労連
	◇電力総連
	◇全電線
	◇電機連合
	◇労務労連
	◇基幹労連
	◇JP労組
	◇私鉄総連
	◇自動車総連
	◇政労連
	◇日教組

# 第96回メーデー大分県中央大会

日時：2025年4月26日(土) 10時開会 会場：大分市「若草公園」



- |   |   |
|---|---|
| <p><b>式典の部</b> (10:00~10:45)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 実行委員長あいさつ</li> <li>3. 来賓あいさつ</li> <li>4. 来賓紹介</li> <li>5. メーデー宣言採択</li> <li>6. 特別決議採択</li> <li>7. ガンバロウ三唱</li> <li>8. 閉会</li> </ol> | <p><b>祭典の部</b> (10:50~12:30)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大抽選会<br/>受付にて配布しています「抽選券」を切り取り、受付に設置しています「抽選箱」へお入れください。<br/>締切は<b>10:30</b>です<br/>※賞品一覧は、別紙をご覧ください。</li> <li>2. 仮面ライダーガヴ ショー &amp; 写真撮影会<br/>※事前の場所取りは出来ません、あらかじめご了承ください。<br/>※大抽選会の進行状況により、開始時間が若干前後することがあります。</li> </ol> |
|---|---|

## 第96回メーデー宣言（案）

本日、私たちは第96回メーデー大分県中央大会を開催した。  
2025年、節目の年。私たちは、過去に学び、現在（いま）を考え、未来（あした）を見据える年にしなければならない。

能登半島地震発災から1年が経過した。  
未だ被災地・被災者は平穏な日常を取り戻せていない。阪神・淡路大震災から30年。この間、幾多の自然災害に見舞われ、年々激甚化・頻発化している。一人ひとりが防災・減災の意識を高め備えなければならない。  
私たちは、災害の記憶を風化させることなく、被災地・被災者に寄り添った支援を継続し、これからも支え合い・助け合い運動を展開していく。

戦後・被爆80年。決して戦争の記憶を風化させてはならない。  
世界は今、「対立と分断」の道を突き進んでいる。戦後の多国間主義や国連中心主義が揺らぎ、世界経済や国際秩序は混沌の度合いを増している。私たちは、働くものの雇用や暮らしを守るとともに、世界の働く仲間と連帯を強め、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、平和運動を力強く進めていく。

私たちは、賃上げがあたりまえの社会をめざし、2025春季生活闘争を展開している。  
企業規模間、雇用形態間、男女間の格差是正と、労務費を含む適切な価格転嫁、適正取引を徹底し、地場の中小企業や、労働組合のない中小・小規模事業所にも賃上げのすそ野を広げていかなければならない。  
労働組合があるからこそ要求し、労使対等な交渉が可能となる。労働組合の意義と必要性を社会全体に浸透させ、仲間づくりを強力に推し進めていく。

普通選挙法の成立から100年。女性参政権が認められて80年。そして男女雇用機会均等法施行から40年。  
私たちは、自由・平等・公正で平和な社会をめざしてきた。引き続き、信頼ある政治の実現をめざすとともに、一人ひとりが尊重され、多様性を認め合い、誰一人取り残されることのない社会をとともに築いていこう。

次代につなぐ 平和の願い！  
みんなでつくろう 支え合う安心社会と確かな未来（あした）を！

以上、ここに宣言する。

2025年4月26日  
第96回メーデー大分県中央大会

## 第96回メーデー大分県中央大会 戦後・被爆80年 次代につなぐ平和の特別決議（案）

2025年、戦後・被爆80年となる。

80年前、第二次世界大戦により、世界で約8千万人が犠牲となった。人類史上、初めて広島に、そして長崎に投下された原子爆弾は計り知れない破壊と苦しみをもたらした。

今なお、戦禍の傷跡や痛みは癒えていない。私たちは、不戦の誓いのもと、働く仲間が連帯し、平和・人権・民主主義を守る歩みを進めている。連合大分としても、平和行動in大分や日出生台集会の取り組みを通じ平和を訴えてきた。

ウクライナ、パレスチナ、ミャンマーなど、世界では戦争・紛争や人権侵害が起きている。なんら罪のない多くの人々が苦しみ、依然として核兵器の脅威が存在している。戦禍の記憶を風化させることなく、武力ではなく、対話と信頼の関係構築を通じ、戦争や核兵器のない世界、持続可能な世界の実現に向けて、私たちは、不断の努力を続けなければならない。

昨年、被爆者の立場から「核兵器なき世界」を訴え続けてきた日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、「対立と分断」を深める世界への警鐘である。

「一発の原子爆弾は私の身内5人を無残な姿に変え一挙に命を奪いました。その時 目にした人々の死にざまは、人間の死とはとても言えないありさまでした。たとえ戦争といえどもこんな殺し方、こんな傷つけ方をしてはいけないと、私はそのとき、強く感じたものであります。」

これは、日本被団協・代表委員の田中熙巳（たなか てるみ）さんの言葉である。

戦争は最大の人権侵害である。  
今を生きる私たちの責任として、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代に継承していかなければならない。

戦後・被爆80年の今、世界がより良い未来（あした）へと向かうための行動と平和の誓いを新たにし、次代につなぐ平和の決議とする。

2025年4月26日  
第96回メーデー大分県中央大会

メーデーの  
始まり

## 8時間は労働に、8時間は休息に、 そしてあとの8時間は自由な時間のために

メーデーは1886年5月1日、米国の労働者が「8時間は労働に、8時間は休息に、そしてあとの8時間は自由な時間のために」を求めてストライキに立ち上がったのが起源です。当時、米国の労働者は長時間労働と低賃金に苦しめられ、労働時間の短縮は切実な要求であったのです。

これをきっかけに世界の労働者は5月1日を「国際的な団結の日」と定め、1890年5月1日、第1回国際メーデーが多くの国で開催されました。

日本では1920年（大正9年）5月2日、第1回メーデーが東京・上野公園で開催。それ以降、毎年開催されてきました。しかし、軍国主義の高まりの中、1936年（昭和11年）の「2.26事件」を契機に、メーデーは全面禁止されました。

第二次世界大戦後、メーデーは労働組合の復活とともに再開。労働者の地位や労働条件の向上、権利拡大をはじめ、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、世界の恒久平和の希求に深く貢献し、その役割を果たしてきています。

現在のメーデーは、米国の労働者が労働条件の改善を訴えたその想いを受け継ぎつつ、働く仲間とお互いをねぎらい、讃え合いながら、家族や地域のみなさんにも楽しんでもらえる一大イベントとして全国各地で開かれています。

連合は、5月1日を祝日にするよう求めています。



## 労働者自主福祉運動とは

1949年、戦後直後の深刻な食料危機と生活物資の不足から、生活物資の確保をめざして労働団体や生協などが集まって、現在の中央労福協の前身である「中央物対協（労務者用物資対策中央連絡協議会）」を結成したのが労働者自主福祉運動のはじまりです。

そのほか、銀行からの融資が受けられず、高利の質屋やヤミ金融で苦しんでいた労働者を守るために設立された労働者のための金融機関である「ろうきん（労働金庫）」、事故や災害などで影響を受けた際に協同的に助け合う「こくみん共済coop（全労済）」などが設置され、働く人による「共助」の取り組みを行っています。